

# 2013年以降の森林吸収源対策について (補足説明資料)

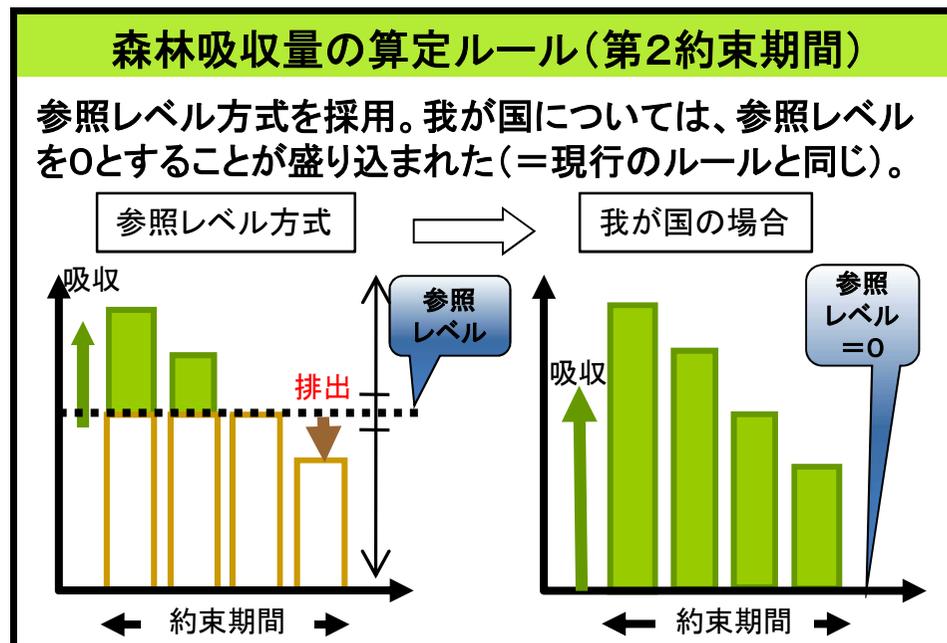
平成24年5月  
林 野 庁

## 第2約束期間における森林吸収源について

- 気候変動枠組条約において、各国が地球温暖化対策を実施すべき項目の一つとして森林吸収源が位置づけられている。
- 第1約束期間において、欧州諸国等が森林吸収源を活用。日本は4,767万CO<sub>2</sub>トンで、欧州諸国の10倍以上の数値を活用。
- 2013年以降の枠組みに関する交渉においても、我が国は森林吸収源を積極的に活用すべきとの立場から交渉し、その結果として日本については、参照レベルゼロ（対象森林の吸収量は全量計上）とすることで合意。

これは、日本がこれまで努力してきた持続的な森林管理が評価されたもので、ゼロが認定されているのは我が国のみ。

- 第2約束期間においても、我が国としては、森林吸収源を最大限に活用することが重要。



## (参考) 森林吸収源対策に必要な投資額等の試算について

総投資額 (兆円/年)	吸収量 (千万トンCO <sub>2</sub> /年)	コスト (万円/トンCO <sub>2</sub> )
0.6	4.4	1.4

※総投資額は、民間投資を含めたもので、森林・林業基本計画(H23年7月閣議決定)の考え方を踏まえ、必要な森林整備、路網整備、木材加工施設整備等を行った場合に見込まれる投資額(2013~2020年の年平均)を機械的に試算したものであり、今後の社会・経済活動の前提条件や技術開発、コスト縮減などにより変動する。

※吸収量は、2013~2020年の平均で3.5%を確保するために必要な量

※この他に木質バイオマス利用に伴う排出削減効果が見込まれる

### ◎経済波及効果と雇用効果 ※産業連関表を用いて試算

森林・林業基本計画に沿って2013~2020年平均3.5%の森林吸収量を確保した場合、

2020年には、関連産業を含めて

経済波及効果:年間約3.2兆円

雇用効果:年間約27万人

### ◎国土保全等森林の有する多面的機能 ※日本学術会議答申(2001.11)

貨幣評価可能な森林の公益的機能について評価した結果、1年間で70兆円程度の効果を発揮・・・森林1ha当り約280万円(=70兆2,638億円 ÷ 全森林2,510万ha)